

千代田の新しい前道を！

会長 鈴木 精成

明けましてお目出度うございます。お揃いにて、よき年をお迎えのことと存じます。

「吟じ起こす正月の正気篇」と高らかに詠い上げるに相応しい年明けです。昨年十一月の、会を挙げての「温習会」の盛り上がりは見事でした。

「千代田三〇〇名」で温習会をやらうと言う、年初の計画が確実に実現し、三〇〇名の吟友が一堂に会したことは正に画期的な成果でした。

岳精流日本吟院

ちよあ

第 4 7 号

平成 2 6 年 1 月

千 代 田 岳 精 会 弘 報

平成二十六年岳精流指標

本 氣

昨年早々から、フレッシュな各教場代表メンバーで構成された「準備委員会」を立上げ、回を重ねての打ち合わせが行われました。年央からは、いよいよ「GO」の「実行委員会」に切替わり、一気呵成に計画の具体化が進められました。委員の皆様は、全てが初めての経験であり、試行錯誤の連続で大変ご苦労されたこと承知しております。

委員の皆様、そしてそれを支えた会員全員の結束の成果だったと思います。改めてお互いに大きな拍手を送り合ひましょう。

これから、どのような形で「温習会」が行われるにしても、「知恵を出し合ひ、汗を流し合ひ」これからの大切な体験を得たものと思います。

いよいよ新たなスタートの平成廿六年を迎えました。

この年にあたり、千代田岳精会として新しい一步を踏み出すことといたしました。

「全ての拠点を、教場“呼称に統一”することとします。これまで元教場からの分室としてスタートしてきた全ての拠点も教場として位置づけ、吟を学ぶ場“に相応しい体制作りに取り組み、一層の前進を図っていききたいと思ひます。勿論、元教場との絆は切っても切れなれないものがあり、これからも指導の面などでその結び付は大事になつていくでしょうが、目指すは「独立独歩」の体制づくりです。

何れにしても、私達が吟を学ぶ場と

としての「教場」は楽しく活気に溢れたところでありたいと思ひます。

新年度は、上記改定の他に次の事にも取組んで参ります。

○ブロックの教化

去年の「温習会」でのブロック毎の結束は是非とも今年に生かしたい。

○「無料講習会」の継続実施

去年の、四か所（調布、鎌倉、熊谷、日暮里）での実績は、今年にも是非活かしたい。

○「全国吟道大会 in 三河」（六月十五日）へ沢山の会員参加

会を挙げて賑やかに三河に乗り込みたい。

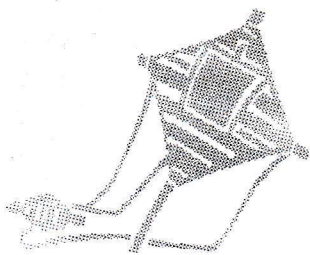
○女子部研修会の充実

二月のお招き講師先生の特別研修会を皮切りに、女子部独自研修を実施します。

○諸研修、「月曜会」等の継続実施

研修は参加者の意欲次第です。参加者がつくる充実研修を実現しましょう。

昨年は「記念大会」の当たり年で、六か所の会、支部の「創立記念吟道大会」に参加しました。それぞれの会、支部の吟友の生き生きとした様子（夫婦吟・幼少年吟等々）に接しながら、我が千代田の皆様の「詩吟をやつてよかった」の声をダフラせています。



千代田岳精会温習会

三年後の「創立三十年記念大会」を見据えて、鈴木会長が温習会プログラム挨拶で述べられた「全会員が一堂に会すること」を基本に企画されました。準備委員会は犬飼事業部門リーダーを委員長として、各教場から選ばれた全く経験のない若手委員で三月に発足。三〇〇名収容の会場探しからスタート、幸いにもJR王子駅に近い「北とぴあ」が確保出来、実行委員会に四月から移行、内容の検討に入りました。

温習会は本来、全員が独吟で登壇が望ましいのですが、教場合吟等の他連吟、グループ合吟で一度登壇を基本に内容は、本年度から編成された四ブロックに時間を割り当て構成を一任してプログラム編成。初めての取り組みで不馴れの点が多く、先輩方からの湯水の毎き助言に混乱しながらも何度も委員会を開催し課題をクリアして、当日を迎えました。

当日参加申込者二六一名、これ程の規模の温習会は岳精流でも数少ないと思われ、実行委員と各教場の会員がそれぞれ担当して進められ、懇親会を合わせて大過なく終了出来たことは、担当者各位の努力と高く評価され、来る三十周年の為に貴重な経験の財産となりました。本当にご苦勞さまでした。

温習会を企画担当して

中野 小蔦 正弘

本年棹尾を飾る大会は都電荒川線、

飛鳥山と往時の風情が残る王子駅横の「北とぴあ飛鳥ホール」にて十一月十三日に開催された。

- ① 近年のイベント技術重視の会から温習会本来の意義を反映する会に
 - ② スリムで内容重視、ブロック制を生かす、三〇〇名の会員が一堂に会する会に
 - ③ 三十周年を見据えた運営のノウハウ作りの会に
- を基本方針として大会スローガン「躍進、千代田へ総結集」を掲げ無事終了した今、反省、課題点などを私見として報告する。
- 山口隆風、八田仁風、犬飼堯山各先生指揮のもと温習会プロジェクトは企画として入会三年程度の会員構成で三月に発足した。大会イメージも「象の背中をなでている」状況で喧々譁々の中からコミュニケーションはうまく「徹底して議論し合意を」を合い言葉とし、ほぼ工程表どおり進めることが出来た。六月迄は編集方針、冊子構成を検討し確定。ブロック吟、一人一吟模範吟を聴く等を基本に時間配分案を作成して七月各教場長に吟詠題決定を依頼。プログラム編集には非常に時間がかかった。ブロックの大会吟リスト、吟者名、入会順、吟題変更等の修正など手間取り九月末までかかった。この課題は次回以降も予測されデータベース整備の必要性を残している。
- 十月の印刷製本作業は精力的に行い、複雑なプログラムを盛り込んだA4サイズの大冊子は製本の完成度も高く、参考になると思う。
- 十月から舞台運営のシナリオ作り、

当日のスリムな運営体制を目指し準備したが会場の制約、環境面から細かい点で多少の問題が発生したのは残念であった。夕刻からの懇親会で鈴木会長、山口委員長、の成功をねぎらう言葉もあり会員交流の和やかな楽しい宴で盛り上がった。

プロジェクトとしては、無事大会終了の達成感はあるが次回以降への課題として

- ① 大会の基本方針の再検討（全体、個別の運営体制で内容大きく変わる）
- ② 会員のデータベース整備（教場の共通DBを作り作業の効率化を図る）
- ③ 上部会議とプロジェクトの連携（各教場長間の意向調整をプロジェクトに反映）

を提案し、最後に前夜・当日の会員諸氏の協力と結束力に感謝する次第である。

楽しく学んだ一日

丸の内第二 名倉 隆雄

健康保険証が後期高齢者用に切り替ったためとも思われませんが、声の調子に何やら変化の兆しが現れ始めたのに気付き、医者に診断を乞うと加齢の為声帯の衰えが原因だとのこと、これではならじと友人に相談を持ちかけると早速に詩吟を勧められた。彼も一年前に岳精流を始め、声の回復のみならず健康保持にも効果的との事である。大会の門を叩き、この七月に千代田岳精会以来期待に違わず良き師、よき先輩に恵まれ、厳しくも楽しい学習の日々を続けている。



教室の呼称を統一

同・内第一教場	同・代々木教場	丸の内第二支部教場	同・草加教場	同・日暮里教場（新任）	同・鎌倉教場（新任）	同・桜ヶ丘教場	丸の内女子教場	◎東陽町ブロック	東陽町支部教場	同・銀座教場	同・神楽坂教場	同・調布教場	同・熊谷教場	鎌ヶ谷教場	同・市川教場	◎中央ブロック	清水教場	同・逗葉教場	同・中野教場（新任）	神田教場	同・用賀教場
大熊 龍清	山口 朱風	山口 隆風	太田 龍翠	本多 凜山	犬飼 堯山	廣田 了風	菅原 龍琴	菊地 駿風	本莊 麗風	勝村 忠山	渡邊 慎二	小林 明風	荻 龍裕	西山 定山	徳本 順風	大槻 銓風	細川 修	池田 康風	田中 錦泉		

幼少年の部
小林俊晴（東陽町）

無料公開講座

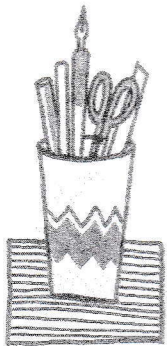
続々分室で開催

岳精流で進めている「吟友の輪」活動に呼応して千代田も積極的に関組んでおり、神楽坂、新宿第二、調布、鎌倉に続いて熊谷、日暮里の各分室で開催され、早速入会の朗報が届いた他、今後の会員増加に繋がるかと期待されています。

「やさしい詩吟講座へのお誘い」
熊谷教場長 小林 明風

千代田岳精会で開催を勧めておられます無料教室東陽町教場開催委員の先生からお話を伺った時、とても無理と頭から極め付けておりました。でも考えてみると準師範を頂いた折、熊谷分室を大きくする事が報恩と「ちよだ」に書いたことを思い起こし、東陽町教場の先生方の後押しもあり、やっとその気になりました。東陽町では、神楽坂、調布分室で素晴らしい会員が入会されたとの事、それに続くことは叶いませんが少しでもお役に立てればと思ひ、構想を練りました。熊谷ではなく場所を替えてアクトシティをしたらどうかと思ひ、会員の中に羽生在住の方が二名居り、また私の実家も羽生なので、さあ！それからが大変です。チラシを作るにも、日程や会場をまとめなくてはなりません。チラシの原稿は東陽町教場長から頂き、カラーで空欄を入しかりました。出来たのはあと一か月しかない時、私と副教場長の小谷野で

個別に家庭訪問をし、又羽生在住の大藤会員にはチラシ配りや大変なお骨折りを頂きました。教場の方達には、当日の役割表を作り、その担当を決め、終了までの進め方を机上のりハサリを致しました。皆で楽しくやりましようと言う合い言葉で九月廿七日を迎えました。磯田先生をはじめ菊池教場長、花山先生、渋谷先生方が遠い田舎の羽生までお出で下さり本当に感謝申し上げます。講習会にご参加の方は廿二名、先生方と熊谷の会員を入れて三十四名、会場は活気に溢れ、詩吟を勉強しようという姿勢が伺えました。参加者の作った俳句をその場で吟じ大変な好評でした。最後の熊谷教場会員の合吟は大拍手のうちには終わりました。アンケートには詩吟がこんなにバラエティに富んだものとは思わなかった。今日は勉強に来て良かったという言葉が多かった。成功したと思ひました。があり、成功したと思ひました。現在、三名の新入会員が出来、熊谷分室羽生教室として私を入れて七名で船出を致しました。鈴木会長から温かい励ましのお言葉と開催経費補助を頂きました。また、東陽町教場から開催に当たったの手順夜教本をはしめ必要な資料を頂き感謝に堪えませんでした。本当に有難うございました。



平成廿五年度奥伝以上、師範審査

十一月四日、恒例の奥伝以上、師範審査が「かわさき保育会館」(旧サンワークかながわ)で澄み渡る秋空の下で開催され、千代田から三十一名が受審した。師範試験は筆記と面接、奥伝以上は吟技審査に挑んだ。この日のために、十分な準備を整えた受審者は全員優秀な成績で合格されました。お目出とうございます。

奥伝

皆伝師範

奥伝師範

中伝準師範

金子	三ツ井	柏川	萩原	板橋	四名	加藤	窪田	太田	花山	四名	萩	野沢	渡邊	二宮	十名	山手	望月	大木	中内	出水	岡部	手塚	町井	北山	西山
澄風	愛風	絃風	晴風	禮風	有風	龍溪	龍翠	龍櫻	龍裕	柳風	華風	祥風	祥風	祥風	遥風	輝風	榮山	博山	鶴山	新鶴	新鶴	新鶴	新鶴	新鶴	新鶴
(東陽町)	(神楽坂)	(神楽坂)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)	(ハザマ)

神田
粕川
紘風

奥伝審査を受けて
丸の内女子 板橋 禮風
振り返つてみれば、詩吟に入門して

試験当日、十一月四日は奇しくも私の誕生日で、縁起が良いのか悪いのか人生初の寝坊をしてしまい、朝からバタバタと出かけました。今回、九段と奥伝師範を受ける事となり、筆記は昔から得意の一夜漬けでと軽い気持ちでいましたところ、この年齢では思った様にならず少々反省致しました。

いよいよ家元の面接となり、何時もと違った緊張の中、家元の前に座りました。家元は、にこやかな笑顔でやさ

「学ぶ」とは
我孫子教場長 二宮 祥風

去る十一月四日奥伝師範を受験させ
 て頂いた。問題の一つに「今年の宗家
 指針について書け」とあり「学ぶ」こ
 とについて改めて考える機会を得た。
 広辞苑に依ると「学ぶ」とは「まね
 てする」「習って行う」「教えを受け
 る」と続く。いずれも源氏物語と、
 徒然草を例に上げている。
 「学びて時にこれを習う、亦説（よろ
 こば）しからずや」は論語の冒頭の一
 節である。又、論語には「学びて思わ
 ざるは則ち罔（くら）し、思いて学ば
 ざるは則ち殆（あやう）し」とある。
 「学んでも考えなければ、物事は、は
 っきりしない。逆に考えて学ばなけれ
 ば、独断に陥ってしまふ」「書物や他人
 から学んだ知識をしつかり身につける
 為には、自分の頭で考え、思索を尽く
 して咀嚼する必要がある。又、考える
 ばかりで学ばなければ、独りよがりにな
 ってしまふ。
 さて、以上のことを吟の世界に当て

はめてみると、まず先生の吟を真似てみる。所謂口伝である。そして折に蝕れて復習をする。これに依つて流統の吟が若干身につく。更に、詩の意味を熟読玩味し、情感を知り、それを先生が如何に表現しているかを考える。緩急、強弱の技法が解かつてくれば、しめたものである。吟を学ぶことの楽しさを一人でも多くの人に伝え、流統の継承に役立つことが出来れば望外の喜びである。それを目標として生涯学習を志ざしたいものだ。

奥伝師範試験を受けて

清水 渡邊 華風

紀元前中国に生きた思想家孔子の言行を記した「論語」に「十五にして学に志し三十にして立つ四十にして惑わず五十にして天命を知り六十にして耳順う」とあります。これは人間は人生の各ステージに於て自らの経験から次々と自分自身を向上させていく、そして常に新しい学びのステージに立つていくと解釈できます。また、中国古典「礼記」に「少而学則壯而有為壯而学則老而不衰老而学則死而不朽」との記述があります。これは我身を修める上でも国家社会を治める上でも、先ず学問教育が最重要であり、生涯を通じて学んでいけば死後にもその功績は残るのであると理解できます。

更に、江戸初期の剣豪宮本武蔵は十三歳で初めて勝負をし、三十歳までに六十余度の勝負をしたが一度たりとも後れを取ったことは無かった明言しております。その武蔵が著述した「五輪

書」水の巻に千日の稽古を鍛とし、萬日の稽古を練とす。能々吟味すべきもの也、とあります。人間は常に勝負感と剣術の智力を学ばねばならない。剣の道の奥義を習得するには一萬日の鍛練が必要である。能々吟味すべき教説である、と納得できます。

私は、この一萬日の練にハッと気付きました。岳精流統の奥義である総伝「精」の雅号を拝受するまでに要する歳月は廿七年であります。一萬日の練は一年三六五日で割ると、約廿七年四か月余りとなります。この兩者の類似点に少なからずの驚愕を禁じ得なかつたのであります。それぞれの道と極める過程は同一であり、連日の地道な学びの積み重ねが重要なのであります。世に稀な天才といえども一足飛びには聖域に到達し得ないのである。

以上が、私の奥伝師範試験の答案の一部であります。まだまだ続きがありますが紙面の都合で割愛いたします。

奥伝師範筆記試験受験

丸の内第二 野沢 柳風

十一月四日、かわさき保育会館で平成廿五年度奥伝師範試験が行なわれた。十月に徳本先生の講習があったものの数年ぶりの筆記試験に気が減入る。落第は無いとはいへ奥伝師範だ。それなりの経験も年数も重ねれば、不出来は許されない。

詩文の大意は模擬試験で勉強した「偶成」ではなく「早に白帝城を登す」だった。ある先輩に山をかけるのではなく、全て勉強しなければ駄目だと笑われた。

一、今年の指標に対して思うこと
二、師範としての抱負

等の作文もあった。

午後は横山岳精家元の面接・十人中十番目、どんなお話がされるのか、どんな質問をされるのか気がもめる。家元からは、親が子供を殺し、子が親を殺す等々世の中が乱れている。若い人がもつと詩吟に接し、「真善美」を身に付けなければいけないとお話だった。

これから、伝位に見合った技術？を磨き、流統の正しい伝統を伝えていく努力が大切であると感じた。

中伝準師範試験を受験して

鎌ヶ谷 町井 澄山

この度、中伝準師範試験を受験するチャンス頂きました。吟には全く縁の無い生活から、今では月二回の教場へ通うのが楽しく充実した魅力に取りつかれております。

今回の受験は吟歴八年の区切りとして何か重たいものを実感すると共に、ちょつたり自信がついたように思います。ひとえに諸先生方、諸先輩方の指導の賜と感謝しております。

今後は、拙い経験を生かしてボランティア活動などを続け、末長く学び楽しみたいと思っております。

千代田岳精会役員人事（一月一日）

担当顧問 鎌倉 高橋 辰風
新宿第二教場 出水田 鶴山
日暮里副教場長 野沢 柳風
中野副教場長 小菖 正弘

年男。年女

今年の干支は甲午です

「もう一周」

丸の内第二 小山 洋三郎



仮に、還暦を折り返し点とし、一年を競技場のトラック一周とすれば、七十二歳は折り返してからトラック十二周だ。あつと言う間の十二周、残念ながら悲しい事が多かった。海外では戦争をはじめ革命やクーデター、テロと悲惨な事件が続発し、無惨な自然災害や大事故が頻発した。国内でも大災害、大事故が数多くあった。特筆すべきは東日本大震災と福島第一原発の事故である。戦後日本における最大悲劇だ。今年三月で発生から丸三年になるが、被災者の絶えぬ苦勞と心配は尽きない。そしてその悲しみ、悔しさ、憤り、やり切れなさは想像に難くない。被災者のみならずこれらの感情は日本国中に広く深く淀み、四十年後と言われる原発の完全廃炉まで、否それ以降も長く尾を引くことだろう。

個人的にも悲しい事が多くあった。母二人を亡くし、親戚友人知人の多くを失った。この歳になると別れが増える。世の常とは言え哀しく寂しい限りだ。しかし幸いなこともあった。息子の結婚、孫の誕生、親子夫婦の健康維持は有難く、天恩に深謝、深謝だ。

さて、本題は今のトラックである。このトラックでは大勢の人が浚刺と走っておられる。特に大先輩方の力強い走りに驚き、勇気づけられる。私も続

（たいと願うが、あと何周走れるかい）神のみぞ知る。今年も又「もう一周」と控へ目に眩き、吟の助けを借りてヨタヨタと走って行こう。それには皆様の変わらぬご指導とご鞭撻が必須だ。ここに哀心から宜しくお願い申し上げ、筆を置く。

想うこと

丸女副教場長 藤原 寿風

詩吟が私の生活のリズムの中に組みこまれて、どの位経ったのでしょうか。私は前だけを向いて生きていたような気がします。今日の一日を精一杯生きること、祈り、食べ、眠り、働き、学び、交わり、感動し、クヨクヨせず速度はかなり遅くなりましたが、ひたすら走り続けています。これも午歳生まれの氣質なのでしょう。これも午歳生まれの氣質なのでしょう。

これまで何度か突然ダウンし家族はじめ皆さんに心配をおかけした事もありました。倒れるまで走り続けるのが馬の習性とか。

これから、詩吟と俳句を通して諸先生のご指導を受けながら皆様との交わりを深めながら心身の健康を心がけ無理をせず生き生きとした人生を歩んでいきたいと思っています。ありがとうございます。

「ウォーキング」と「詩吟」で

健康維持を！ 桜ヶ丘副教場長 中島 義文

古えより「光陰矢の如し」と言われていますが、小生も今回で六回目の干支を迎え、時の流れの速さを痛感する

昨今です。小生は六十歳の定年を機に、体の老化防止のため、一日一万歩のウォーキングを始め、現在も辛抱強く継続しています。昨年、詩吟教室で「声も老化すること」「声の老化は声帯の筋肉の衰えから生じ、それが老人にとって致命傷となる誤嚥性肺炎の原因となること」そして「声帯の筋肉の訓練には詩吟が最適であること」を知りました。幸い小生は縁あって一昨年十月から詩吟を始め、今では詩吟を少しは楽しめる程になつてきました。顧みれば、この間で、古今の一級品の詩歌を学ぶたけなく、アフター詩吟で種々のキャリアの吟友の方々と楽しい一時を共有出来たことに大きな喜びを感じております。これからは「ウォーキング」と「詩吟」に一層精進して、心身の健康維持に努力する所存です。引き続き、ご指導を宜しくお願いいたします。

「午年にあたつて」思うこと

中野 桜田 謙進

暦の一回りを過ぎ、あつと言う間に、六回目の年男を迎えました。この年になつても立派な座右の銘など持たせておりませんが、しいて言えば、「感謝の心を忘れず、今日一日を精一杯生きること」をモットーとしております。これは簡単そうで難しいことでもあります。何故なら人は自分が一番かわいからず、私自身もそうですが、とかく、我々は他人への感謝の気持ちを持てず、自己中心で何でも出来る、「自分こそ」と自己中心になりがちです。たとえば

野球のピッチャー一人で相手チームと対戦することが出来ません。球を受けにくれる人、守ってくれる人、点を取ってくれる人がいてはじめて対戦することが出来ます。監督、コーチ、裏方の方々の支えも必要であります。日本のシリーズで優勝した東北楽天の、あの廿四連勝した田中将大投手もインタビュで言っています「人のためになつてこそ人間、他の人があつてこそ自分」に自分に言い聞かせて充実した人生を送りたいと念じております。

詩吟を始めて四年ですが、清水教場の村上、徳本両先生、吟友に感謝し、一層精進したいと存じます。

詩吟と私

新宿 岡部 禎山

筑海の颶風天に連なつて黒し、海を蔽うて来たる者は何の賊ぞ 蒙古来たる北より来たる：小学六年の学芸会で「蒙古来」の剣舞を舞った。背が高かつたので真剣を使わされた。子供の剣舞では玩具の剣が普通なので少し誇らしかつた。ただ、舞いでなく伴吟を受持つていたなら、詩吟との関わりがもつと早かつたのではと考えることがある。

私の母は明治四十年生まれで百二歳まで長生きした。私の結婚式の披露宴で、漢詩らしきものを作り吟じてくれた。我が母ながら明治生まれの人の国漢力の強さに敬服。吟を始めて帰省した際、報告したら「富士山」知っていたるかときさみ始めたのにも驚いた。

（当時九十九歳）

八年前、酒井教場長に誘われて教場を見学、橋本教場長（当時）の吟に魅

せられて直ちに入会。豚もおだてりや木に登るよろしく、先生の褒め上手に乗せられ没入していった。毎日が日曜日の離職後、これ程熱中できる趣味を持ちえたことを、両先生にお礼申し上げたい。

七巡り目の甲午の年を迎え八十四歳になるがまだまだ元氣、今後とも敬愛する吟友と共に吟を楽しみ、且つアフトーで酒を愛で続けたい。

早駆けせず ゆっくりと

清水 望月 輝山

昭和五年生まれの私は、七巡目の年男となりました。「喜寿」を機会に入会した私は、他の方々よりの遅れを縮めようと、合宿研修会に参加したり、吟詠コンクール港区予選に参加したりしました。平成廿二年には武道館で行われた全国吟剣詩舞道大会合吟コンクールの岳精流本部男子の一員として参加「乃木將軍を挽す」杉浦重剛作で第二位となった感激は忘れられません。馬齢を重ねるに従い体力・氣力の衰えを感じます。ただ好奇心だけは旺盛なので今年も吟も剣も早駆けせず吟友、剣友と楽しく過ごせればと思つています。但し、千代田岳精会は「天高く駆ける馬」となることをお祈りします。

学問は尻から抜ける螢かな
丸の内第二 田尻 映山

千支の甲午、人生経験も十分に豊富なか、皆様に！とのこと、あー年女なんだと、氣付きました。学問は尻から抜ける螢かなとか、実感ですが、四

のお兄様、お姉様方に接するたび、姿勢を正し、励まされ、心踊らせて詩吟に取組む氣持が生まれ始めたこの頃です。日本語の響きの美しさ、難しさ、詩の背景、歴史、人物と日頃の生活から離れて、想像の世界に引き込まれます。お腹一杯の大声を張り上げる勉強の時間も大切、スツキリとして帰宅、さあそれからお母さんを勤めます。千代田岳精会の熱氣が私のサプリメントです。吟友の皆々様のご健勝を祈り上げます。

吟樂四年を振り返つて

新宿 川辺 掬泉

思えば、私が吟を楽しむ切掛は四年程前、歴史小説に夢中になつていたところ、戦国時代の名将達が茶に親しみ漢詩を嗜む、みな教養人だった事に驚いたのです。私も漢詩を理解したいと思つたとき、知合いの先生に吟でも漢詩を勉強出来るよと勧めて頂いたのです。

平成廿一年六月、新宿教場を紹介され恐る恐る伺いまして、温かく迎えて頂き、皆さんの吟を聞いていた内に吟の節調が心に響き良いものだと思ひました。また頼山陽の川中島であつたので感動しました。丁度その頃、頼山陽の小説を読んでいた。今だ発声の一つ一つから指導頂き、今だにお腹から出ませんが、コンクール・昇伝審査・温習会と何も分からず参加している内にあつという間の四年間で皆様に感謝。吟を愛し、酒を愛し賑やかな教場で、今後も頂いた雅号に恥じ

最後は鈴木会長の「菊花」で締めたい。当日は拝殿前に椅子と納吟のプリントが置かれ、何人かの方が聞き入って下さっていた。

『新会員紹介』

◆九ノ内第二鎌倉教場
鈴木加代子さん（九月入会）



育ちも東京下町、江戸っ子とは言いがた。昭和最後の年に鎌倉へ流れ住み着き、四半世紀を過ぎても下町っ子の野暮と粋が剥がれない。リタイアして六年目、好きなことしかやらない。バツタリ出会った詩吟が好きになつたのが運の良さ。さてこれまで。

◆東陽町支部教場
阿部弘美さん（九月入会）

私は定年後山や旅行のグループに加わり楽しんでおりましたが、友人の集まりの中でよく詩吟を詠じてくれる人がありまして、良い趣味と知っておりました。現役の時からおから度々詩吟教室へのお誘いを受け、世話になりましたが、意を決して今度お合いの方も教室に来ておられ、心強く安心して気持ちです。今後共宜しくお願ひします。

◆東陽町支部神楽坂教場
金城陽子さん（十一月入会）

沖繩の育ち、詩吟を習いたいといふ「ネット」で検索し、詩吟教室「神楽坂」に入会の連絡を頂きました。同郷の友達と仲良く詩吟を楽しんで学びたいと一緒に来訪、明るい方です。この方は十二月入会の約束を頂きました。

した。この様な理想的な組合せが続々生まれたいものです。

◆東陽町支部熊谷教場
村田伊勢雄氏（十月入会）

詩吟講座へ誘われるまま参加した。講師の方々の素晴らしい発声音に魅了され、七十五歳過ぎても出来るか不安ですが、孫達には何事にも挑戦努力せよと言ってる手前もあり、爺さんもやつて見るかと思ひ入会しました。音程、母音の発声、息継ぎ等大変難しい事ばかりですが、先生のご指導のもと頑張りますので宜しくお願いします。

増田信子さん（十月入会）

小林明風分室長の朗々たる吟詠を拝聴し、声の厚さ、ひびき、若々しさに感動し、同じ八十歳でも内に秘めた活力があるのは詩吟をなさっているからかも知れない、この機会に是非中国や日本の古今の漢詩や和歌を勉強したい。声が続かないので詩吟が無理なら朗詠だけでも練習し先人の美しい心に触れられたら楽しいのではと思います。

中里アサ子さん（十月入会）

小林明風先生に詩吟を教えて頂き腹式呼吸の発声で沢山の酸素で心と身体を健康保持をモットーに詩吟の楽しさを学びたいと思ひます。これからご指導よろしくお願ひ致します。

◆清水中野教場
早川滋氏（十一月入会）

十一月から中野教場に入会しました。早川です。湯浅先輩に教場に誘われ、皆様の詩を吟ずる姿、場の雰囲気により、氣力・体力の衰えに喝を、

れ、楽しく、元気で広がりのある第二の人生を過ごしたいと思ひます。

◆和田博之氏（十月入会）

前々から先輩に誘われ、特に考えもなく教場へ、吟礼が終わった頃汗が出て、あれと思う間もなく詩吟の初日の講習の時間が流れました。あれから四か月足らずですが、教場の時間には日常から離れて正気に戻るような気持ちになり、杜若が還暦を過ぎた頃大きな広がり、深みを持って迫つて来た事に不思議な気がしています。

◆加藤雅巳氏（九月入会）

「一度見学してみたら」の誘いに応じ、教場参観に行き、詩吟の世界に初めて触れました。格調高い岳精流の吟詠を耳にして、これは学ぶ価値がある一生の趣味の伴侶として、この世界を知ろうと思ひ即日入会した次第です。

◆犬飼良光氏（八月入会）

コミュニケーションセンターのクラオケ的に参加されており、只今コンダクター練習中の真面目な方です。クラオケ同様上達も早いと思われ、前途有望と期待し、楽しみにしています。

編集後記

編集を手作りで始めて十五年、故障をなだめ、騙して酷使してきたワープロが今号で卒業予定です。感謝を込めて蓋を閉じました。（八田）